



ロータリーは
世界をつなぐ



RI第2510地区 留萌ロータリークラブ

会報

2019 ▶ 2020
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

クラブの活性化と行動は 世界・地域に向けて

会長／福士 幸子 幹事／串橋 伸幸

プログラム

- 本日
「年次総会」
- 次週予定
「クリスマス家族会」

会員誕生日
對馬 健一

配偶者誕生日
渡邊 順子
山本 由紀子

No. 2850
第20回 11月27日

出席報告

前例会

会員総数	31名
出免会員	2名
出免出席	2名
基準会員出席	19名
出席率	65.51%

前々々会

第17回11月6日	
欠席会員	12名
内メイクアップ	7名
修正出席率	89.65%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

1. 11月17日開催の地区補助金事業、皆様大変ご苦勞様でした。社会奉仕委員会の皆様も大変ご苦勞様でした。盛会裏に終わり大変うれしく思います。

📁 幹事報告

- 11月27日の例会は年次総会となりますので出席よろしくお願ひします。

ゲスト

一般社団法人 留萌青年会議所
次年度理事長予定者 伊藤 悟様

👥 委員会報告

社会奉仕委員会 関野委員長

只今会長からも報告があったように、皆様のご協力により地区の補助金事業が無事終了する事が出来ました。改めてお礼申し上げます。

また、明日21日午前10時より特別支援学級留萌南部ブロックの合同発表会が開催されます。出席できる方は、9時45分までに留萌市中央公民館にお集まりください。よろしくお願ひします。

国際奉仕委員会 西原委員長

来週27日で財団寄付を終了いたします。皆様の温かいご寄付をいただいておりますが、次週まで寄付のチャンスがあります。よろしくお願ひします。

ニコニコBOX

- 社会奉仕事業、皆様ご苦勞様でした。

福士会長

- 地区補助金事業、大盛況に終了しました。皆様ご協力ありがとうございました。

関野委員長

前 回	330,000円
今 回	12,000円
累 計	<u>342,000円</u>

プログラム

一般社団法人留萌青年会議所

次年度理事長予定者 伊藤 悟 様

皆さん、こんにちは。私は、一般社団法人留萌青年会議所2019年度副理事長の伊藤悟と申します。本日は2019年度の事業の取り組みを地域と人財の成長という観点で、パワーポイントを使って説明させていただきます。

まず、今年度の政策事業を説明させていただきます。留萌市に於いても人口減少問題から働き手の減少はあらゆる分野に影響を及ぼしている事から、留萌青年会議所では生産年齢人口の獲得にむけた、取り組みを実施してきました。生産年齢人口獲得への動き出しとして、留萌が抱える課題の一つである待機児童問題に取り組み、効果を生み出す事で生産年齢人口獲得の好事例として打ち出す事を狙いました。最初の例会で萌幼会の保育士関係者をお招きし、保育士獲得が今後の生産年齢人口獲得にどう繋がっていくのか、その後の目指すビジョンについて説明させていただきました。実際働いている先生方のお話をお聞きし、現場の課題について話し合い、地域の方との繋がりを深め、今後に向けての協力体制の土台を作る場となりました。

次の取り組みとして、地域外の保育士希望の大学や専門学校の学生をターゲットとして選定し、留萌で住み、暮らし、働く上でどのようなニーズがあるのかを調査した結果、仕事の内容もそうですが、人間関係について不安があると



いうお話が多かった事をもとに、地域外の学生と市内幼稚園の先生方をお招きし、就職希望者のニーズと受け入れ側のニーズをマッチングする交流例会を行いました。趣味のお話から仕事のお話など、幅広く意見交換ができ、連絡先を交換する等この場だけでない、今後の繋がりも深める事が出来ました。その後参加された生徒の中で、学校に戻った時の教育実習でも留萌市内の幼稚園を選択された生徒がいることから、市内に就職する選択が出来た機会になったと思っています。実際の就職については学校を卒業してからになりますので、引き続き連絡を取りながら、私たちとしても見守っているところであります。

最後の取り組みとして、12月に控えている例会で本年の取り組みを検証し、効果を発信する例会を企画しております。待機児童問題から保育士に観点を当てた事業の成功事例や講師をお呼びし、他地域での生産年齢人口獲得に向けた取り組みの成功事例を発信し、今後の留萌地域での生産年齢人口獲得への動きを推進していきます。以上ここまでが、地域の問題点に視点を当てた政策事業の説明でした。

次に人財の成長という観点から本年行なった事例を紹介させていただきます。5月下旬に留萌出身であり、元ソフトバンクのプロ野球選手、本間満氏をお招きし、市内の子供たちを対象とした野球教室を実施いたしました。子供たちには夢や目標を持つ事の大切さや、団体競技ならではの仲間同士の助け合いや友情をもってもらいたいという目的ではありませんでしたが、一番は私たちJCメンバーが、子供たちのためにこのよ

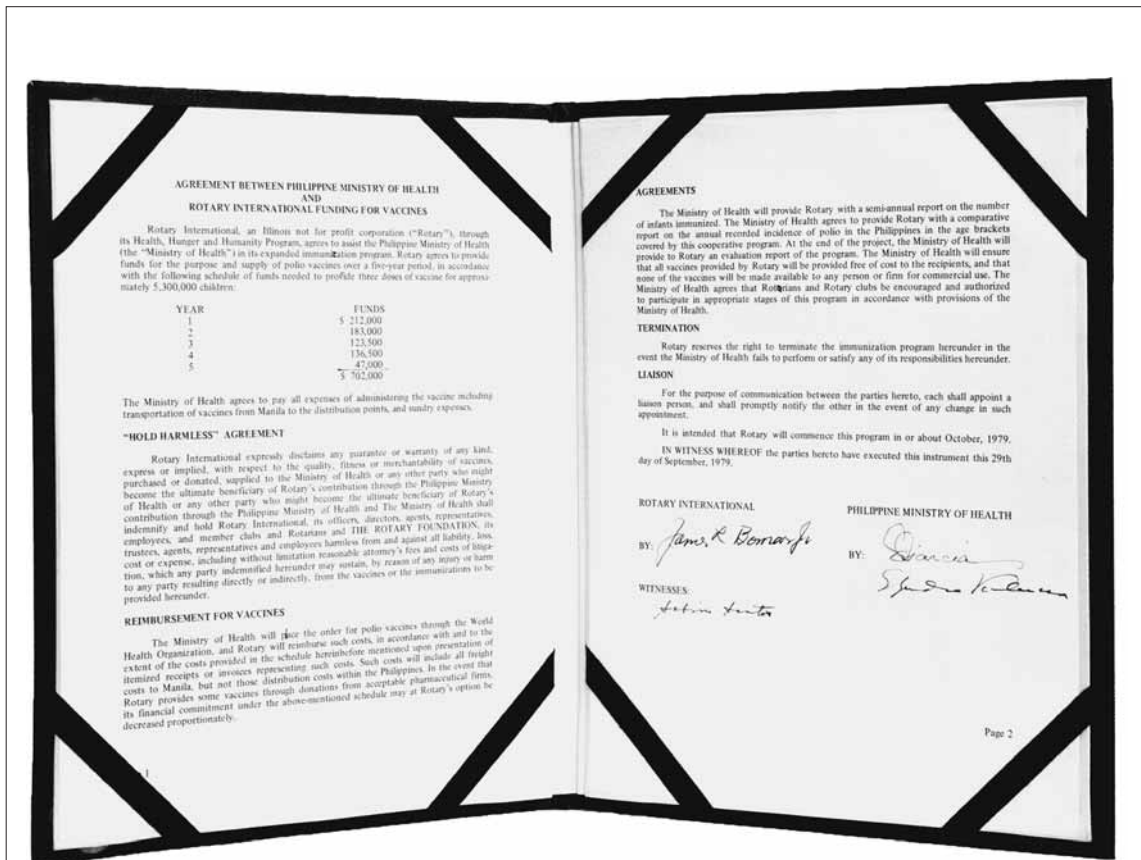
うな機会を作るだけではなく、実際に練習を教えたりするなど行動し、本間さんの協力をいただきながら行いました。野球未経験者や私たちも含め普段運動していないメンバーもいる中、準備段階から本間さんとの何回もの打ち合わせをさせていただき、練習内容を把握し、子供たちの事を思って本間さんをお願いするだけではなく、本番を想定しながら進めてきたことは、メンバーそれぞれの成長にもつながった例会だったと思います。

続いては、こちらは先月行った青年会議所恒例の新入会員が担当する例会です。

内容は、市内に来ているベトナム人留学生に仕事や勉強以外にも生活する中で、留萌をもっと好きになっていただきたい、ベトナムに住む家族や友人にも留萌の事を話して、留萌をもっと身近に感じていただきたいという思いから実施いたしました。留萌の地域にちなんだ工夫をしたかるた大会や、観光スポットの発信、日本文化であるチャンバラや餅つきなどの交流を通し、留萌を身近に感じてもらえる機会となりました。新入会員やメンバーも一方的に伝えるだけではなく、ベトナムの文化やベトナム語を事前に学び、進んで話しかけ、行動するなどした結果、大変盛り上がる例会になったと思います。研修期間が終わった後もまた留萌に来たいと言ってくれた言葉を聞いた時にはうれしさがこみ上げて、大変うれしく感じました。

以上簡単ですが、一般社団法人留萌青年会議所の今年度の取り組みと活動についてお話をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。





ポリオと闘う 40 年間

THE ROTARIAN 9月号から

1979年9月29日、国際ロータリー(RI)のリーダーたちはフィリピン・マニラ郊外にある学校の校庭で役人たちと会談し、530万人の子どもたちに経口ポリオワクチンを提供するための5年間のパートナーシップを結びました。ロータリーは、当時開始したばかりの「保健、飢餓追放および人間性尊重補助金(3-H)プログラム」で、70万ドルを超える資金の提供を約束したのです。

その9月の晴れた日、約100人の

子どもたちにワクチンが投与されました。ポリオ根絶を目指すロータリーの世界的な闘いの、その最初の一滴を投与したRI会長のジェームスL.ボーマー、Jr氏は、校庭に集まった母親とその子ども、そのまた子どもたちのためにこのプログラムに尽力しました。

フィリピンの弁護士であり、RI理事、そして後にRI会長となるM.A.T.カバラス氏は、「素晴らしいことには、必ず小さな始まりがある」

と聴衆に説いています。

その最初のワクチンの投与後、ボーマーRI会長はズボンが引っ張られるのを感じました。「私は驚いて下を見ると、ポリオで体が不自由な小さな男の子がいました」と彼は回顧します。男の子の妹がワクチンの接種を受けたばかりでした。少年は泥だらけの顔いっぱいに笑顔を見せ、「ありがとう、ありがとう、ロータリー」と言いました。

- GEOFFREY JOHNSON